

2005年8月27日 No.79

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

# 全国一般全国協

# 第15回定期大会の成功を！

## 全国協を大きな一般産別運動に発展させよう

9月10～11日、第15回大会を開催する。ところで、9月11日は突然、衆議院総選挙が行われ、投票日となった。小泉首相が小泉構造改革の本命と位置付けてきた

郵政民営化が、自民党内の反乱と、院外での反対運動、過疎地を中心とした「郵便局が無くなる」という、素朴な疑問もあり、法案が否決された結果の総選挙である。本来なら法案が否決された場合には小泉内閣は総辞職するのがスジであるが、

小泉内閣が発足して4年が経過している。小泉構造改革が掲げてきた規制緩和は「労働者の権利破壊と、大企業本位、利益第一主義社会」への作り変えであり、日本を再び「戦争をする国」へと作り変える政府である

このような労働者にとって大変厳しい状況に日本の労働運動は有効な反撃を作り出せていない。わたしたち中小・零細企業で働く労働者、パート・派遣・臨時などと呼ばれて働く労働者にとって小泉構造改革がもたらした結果は一層の零落と年収300万世帯への強制と諸権利の剥奪である。なんとしても小泉構造改革に対して大きな反撃を作り出す必要がある。

労働者がわたしたちとともに全国協の一員として運動を進めることになった。またその他、幾つかの労組では全国協の仲間として共同の闘いを作る検討をはじめていただいている。全港湾、全日建との三単産共同行動の前進、中小ネットの仲間との共同行動など一般産別運動の基礎的構造は形成されつつある。全国一般産別運動を真に大きな一般産別運動として発展させるためにこの一年の闘いは大変重要である。

あえて衆議院を解散し「民営化に賛成か反対か」を問うという。また自民党の中で「反対」した議員には対抗馬を刺客を立てて国会から追い出すと言った事まで行われている。そうした強引な小泉流恐怖政治が一方で支持率を押し上げて来て

いると言つ。ヒットラーが民主的に選ばれた独裁者と居られる所以はかくのごときであったのかとも思え、恐怖さえ感じる。

き着き更に拡大している。また平和憲法は無視され自衛隊はイラクの戦場に派兵され、アメリカの指揮のもとで有志連合、駐留軍の一部を構成しイラクで駐屯を続けている。

第15回大会では、新に全国一般東京労組と東京東部

必要がある。

### 第15回定期大会開催

日時◎2005年  
9月10日(土) 13:00～  
9月11日(日) 12:00

場所◎東京カメリアプラザ

# 歴史的な勝利をうけ 郵政民営化阻止の総仕上げの闘いへ

8月8日、参議院本会議で郵政民営化法案は、賛成108票、反対125票の17票差という大差で否決された。

今回の勝利をご支援戴いた全労協や各市民団体共闘関係の仲間の皆さんと共に喜びを分かち合いたい。

我々郵政労働者ユニオンは、この間、組織の総力を挙げて郵政民営化法案を廃案へ追い込む闘いを展開してきた。特に、5月31日闘争本部を立ち上げ、6月2日から8月8日まで5波に渡る集中行動・国会前座り込み、議員全員へのピラ入れ(14回)、さらに2回の院内集会や初めての国会請願デモなど、共闘の力を一つにして多くの結集で成功させてきた。8月8日国会前座り込みは、採決の様子をラジオ中継からマイクで流し、大差で否決されると最高潮に達した。150名を越える仲間が、投票を終

えて続々と出てくる議員に拍手と激励の声をかけ、社民党近藤参議院議員、社民党福島党首が、ほかほかの国会報告とアジテーションを行った。

この勝利は、米国からの理不尽な郵政民営化要求を日本国民が拒否したという勝利にとどまらず、今日全世界で米国式グローバルゼーションに苦しめられる多くの貧しい国々や人びとへの大きな励ましになる勝利である。

しかし、小泉首相は、あらゆることか憲法の精神を踏みにじり二院制を否定し、否決もしていない衆議院を解散するという暴挙を行ってきた。あくまで郵政民営化に固執する小泉首相の今回の衆議院解散こそ独裁的な強権政治の現れの最たるものである。

我々は、郵政民営化阻止の総仕上げになる次なる闘いへ歩を進めなければなら

ない。郵政ユニオンは、この間、郵政民営化法案に反対する

とともに郵政公社が進める実質的な民営化路線に対しても厳しく批判してきた。我々は、荒廃した職場を労働者の連帯によって公共性をとりもどし、公共労働を再構築する連帯運動を力強

く取り組んでいくものである。今回の勝利は、郵政公共サービスを市民と社会の手へとりもどすその一里塚を築いた。郵政ユニオンは、市民・利用者のための真の郵政改革をめざしさらに闘いを強化していく。



8.8 国会前座り込み

# 枝川小学校問題、 靖国問題に取り組む

今年は前後60年、戦争と戦後処理について改める機会である。あたかも、朝鮮半島非核化を巡る6カ国協議・日本の国連常任理事国問題など国際的な政治緊張が高まる中、靖国公式参拝・教科書問題など小泉政権の歴史認識を欠落したナショナリズム政策が横行し、アジアの人々の怒りを買っている。一方、学校教育が無視する中、すでに戦争体験者が社会的少数派になり、戦争・戦後が語り継がれる機会が失われつつある。

校が石原都政によって立ち退きを迫られている「枝川小学校」問題の現地調査に取組み、歴史的背景と問題点の共有をおこなった。続いて、靖国問題の理解を深め、また今年には単に戦後60年ばかりでなく、朝鮮処理問題の解決が迫られる時であることを学んでいる。

全国一般東京南部は、戦争責任・戦後処理をもう一度捉え返し、再びアジアの人々との連帯を求めようと、全統一労働組合と共同で「戦後60年キャンペーン」に取り組んでいる。今年年末まで継続する学習会・フィールドワークなどを通じ、今、東京で歴史を振り返ろうという企画である。7月15日には、東京江東区で民族学

今後も、9月関東大震災82周年の朝鮮人殉難者追悼式への参加、東京に残る戦跡と植民地支配の跡地フィールドワークなどを継続していく予定だ。



# 7・22 台場昭和シエル本社前 に組合旗が林立

全石油昭和シエル労組が

「不満なら闘う」と産別の統一ストライキに参加したのが70春闘だった。以来30数年、会社は組合分裂攻撃を始めとして、暴力による組合活動妨害、役員配転攻撃、そして賃金・昇格差別と執拗に不当労働行為を行ってきた。

1989年から、大阪、東京で賃金昇格差別是正の闘いが開始され、近年、4つの組合完全勝利命令が出されている。差別された額は金利も含めて15億円にも及ぶ。2003年には組合



全石油昭和シエル労組

が支援する野崎光枝さんの女性差別裁判で45000万円の損害賠償を会社は命じられ、また昨年12月には現役女性組合員12名により女性差別の訴えが東京地裁に提訴されている。

しかし、昭和シエルの新美会長は「浮世離れした先生の出した命令」と言っており、労働法や均等法は法律に該当しないとばかりに、中労委への再審査申立、行政訴訟を行ない、労使紛争の解決に向けた態度を示そうとしない。

こんな会社に、怒りを示し、解決の決断を迫る本社前社前集会を成功させようと取組んだのが7・22社前集会だった。4時半からOB組合員も含め、本社の組合員が役員室前でストライキの座り込み、5時半から前段集会とビラまき、6時過ぎ本集会が始まった。「港区海外」といわれる足場の悪いところにどれだけの仲間が集まってくるのか、そんな不安をふき飛ばすよ

うに、東京清掃、東水労、国労闘争団をはじめ、東部、中部、南部、神奈川、厚木など各地から60団体、200名の仲間が駆けつけてく

## 外国人の使い捨てを許さない！ ストライキと街頭行動で抗議！

福岡ゼネラルユニオン 川口英治

3月6日、東京でのジョブセキユリティーマーチと連動して、福岡でも20名の外国人の仲間が天神に集合し、人通りの中を築しく騒がしくマーチングを行い、NOVA天神校の前ではチラシを配ったり、アピールしたり、ギター伴奏で歌を歌ったりと、日曜日の商店街をよりにぎやかにする行動をしました。

「外国人を使い捨てにするな！」「国籍を理由に差別してはいけない！」といったゼッケンをつけた仲間が英語でアピールするさまは、周りで見ている人にとっては最も驚きでしたが、最も驚いたのはやっている本人たちでした。「もう黙ってはいない！」と言う強い意志表示が、スピーカーを通して福岡の街に響き渡りました。

決断をせまる闘いは大きく踏み出された。勝利をもぎ取る気持ちで秋への闘いにつなげたい。

ところで、NOVAは、いつも全く突然、人事異動を強行します。また、突然スケジュールを変更します。本人の意思は全く無視して強行されるため、多くの場合は、そうしたNOVAのやり方に不満を持ちながらもNOVAをやめてしまいうケースが多いのです。

ところが、こうしたNOVAのやり方に抗議して、3月以降、3名のGFUMバーが断続的にストライキを決定し続けています。人事異動を撤回させるまでこの闘いは継続されます。しかも、ストライキの最中にもかかわらず、契約の更新もかちとりました！

福岡での外国人の連帯の輪は、職場から街頭へ、そして地域へと着実に広がっています。

# 7・21 光輪モーターズ分会 夏の集会デモ

全統一光輪モーターズ分会

今年も光輪モーターズ分会夏の集会&デモが7月21日に行なわれました。当日は、夏の暑さにもかかわらず、入谷南公園に3000人の仲間が集結しました。午後6時に、支援共闘会議議長、全国一般全国協中岡委員長、全国一般全国協中岡委員長の挨拶により集会がスタートしました。

集会では、この日に焦点を合わせて今年3月より取組んできた石上さんに対する襲撃事件の全容解明と犯人逮捕の団体署名の結果が、

## 共生ユニオン岩手 第5回定期大会開催

共生ユニオン岩手第5回定期大会は、7月10日行われた。開会宣言と委員長挨拶に続いて、全国一般全国協共生ユニオン岩手第5回定期大会は、7月10日行われた。開会宣言と委員長挨拶に続いて、全国一般全国協遠藤一郎書記長外4名の来賓から挨拶をいただいた。この1年間の私たちの活動は、市民運動型労働運動として、職場闘争・環境保護・

石上さん本人より報告されました。全国より国会議員を含む1400団体の署名を、警察庁・千葉真警本部・松戸署へ提出し、今より更に強化した捜査の要請を行なってきました。そして、参加団体の皆様から挨拶の後、会社に向けてのデモがスタートしました。当日、若林社長は朝から逃げ隠れていましたが、参加者の声はいつまでも光輪ロードに響いていました。

地場産業保護など多岐にわたっていたが、来賓の方々から私たちの活動の方向を推し進めていくことに賛意をいただいた。

その後、相互の信頼に基づき労働と生活の質的な向上を目指しつつ、職場を越え、地域を越え、「働き」暮らし「生きる」を自らの中で統合し高めながら、仲間と友情と連帯のネットワークを結び議案が決定された。

# 労働組合の社会的役割はいりませんか

(その3)

大鵬薬品工業労働組合 執行委員 北野 静雄

更に「薬害・医療被害をなくすための厚生労働省交渉実行委員会」のメンバーとして20年間、医薬品のデータ不正事件を中心に厚労省交渉を継続している。製薬企業の労働組合の社会的使命として自社製品に対し監視と同時に責任も持たねばならない。そう決意した。

## 「労働組合は役に立っているか」

2000年〇月に朝日新聞の連載特集記事である。何とも直接的、露骨な表現である。〇月〇日の記事は雪印乳業の〇〇事件、三菱ふそうの〇〇事件等を取り上げ、そのとき労働組合や労働者はいったい何をしていたのかと問いただしている。社会性を失った労働組合はむしろないほうが言い訳が立つ。約20年前に争議の真っ只中の京都の集会で私は「人工血液製剤のデータを捏造していた」ミドリ十字のデータ不正事件について、労働組合が無い会社

いうことを忘れたら、労働組合は駄目になる。」まさに大衆から求められ

ている労働組合のあり方一つを示しているのではないだろうか。

## キャラバン行動成功！労働組合に入ろう、つくろう、闘おうと訴え

ユニオン北九州

ユニオン北九州は、5月14・15日の2日間を春闘キャラバンとして取り組み、北九州市の門司港・門司・小倉・戸畑・黒崎・折尾の各駅頭でのマイク情宣・ピラ

まき・労働相談に取り組みました。小泉構造改革による労働者の生活の危機、それとのたたかひのための労働組合に入ろう、つくろう、たたかおう、と訴えました。ピラも名刺大のものを配るなど、いろいろな工夫をこらしました。反応は大きく、各駅でさまざまな労働相談があり、トラック・ビルメンの仲間2名が組合に加入しました。駅待ちのタクシ

労働組合は役に立っているか」と切り替えした。冷や冷やものであったが、その更に10年後にHIVを含む血液製剤事件で私の発言は証明されたことになった。同朝日新聞の記事の中に消費者団体の代表の方の労働組合に対するコメント記事が掲載されていた。「雪印乳業や三菱自動車などの事件はひどすぎる。労働者がものを言えない状況におかれていることは知っている。だからと言って、消費者を危険にさらす言い訳にはならない。労使協調もいけれど、会社を守ろうという行為が逆に会社をあやうくすることもある。労働者は経営者と違う、と

そうした活動も含め、トラックでは2つの職場があたりに公然化するなど、夏にかけて田川信用金庫(労働

者にも独自の宣伝活動も行いました。そうした活動も含め、トラックでは2つの職場があたりに公然化するなど、夏にかけて田川信用金庫(労働



## だいたい「女性の力を」なんていう男は信じないほうがいい

全国一般東京南部 中島由美子

「郵政民営化法案に反対した前職への『刺客』に『女性』候補者」、「比例代表は全ブロックで名簿登載1位に『女性枠』と聞いて、じつに不愉快になった。もちろん国会議員や閣僚をはじめさまざまな分野に女性が増えてほしいが、なにしろ自民党の小選挙区公認候補予定者が29人ぐらいいる中で、女性候補は21人だっているのだから、もともと自民党の中で女性が自然に認められていくとは思えない。相変わらず女性が入り込むのは容易でない「男の世界」だ。

それを上昇志向の強い女性たちならこの機会を逃さないだろうと、出馬を口説いたらしいことがなさらざら気分を不快にさせる。これらの女性たちはそれぞれの実力も自信もある人たちなので、(何をやるのか知らないが)きつとやる気も充分だろう。しかし小泉内閣は発足当時歴代で一番多い5名の

それぞれ個別にはそう思わなかったのに、「刺客」だか「改革のアドナ」だかになったら、みんな似たようなタイプに見えてしかたがない。そのうちの一人が出馬理由をテレビで語っているのを見たとき、「尊師」という言葉が頭に浮かんだ。ああ、この国はかなりやばい。